

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度選定

埼玉県戸田市

2023年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

戸田市 SDGs未来都市計画
～『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまちとだ～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

戸田市 SDGs未来都市計画『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ

(2) 2030年のあるべき姿

便利で快適だけでなく、感染症に対する防止体制を確立するとともに、自然災害に強い都市環境を構築し、子どもから高齢者まで誰もがその人らしく安心して住み続けられる、「みんな輝く 未来共創のまち」を実現する。

<7つの基本目標>

- ①子どもが健やかに育ち、いきいきと輝けるまち ②創造性や豊かな心を育むまち ③共に生き、支え合い、安心して暮らせるまち ④安全な暮らしを守るまち
⑤快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち ⑥都市環境と自然が調和したまち ⑦活力にあふれ人が集い心ふれあうまち

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
	  	  

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内で経済活動が行われている事業所数【8,1 8,3】	2021年4月 5,252 事業所	データなし	2030年 5,252 事業所以上	—
2	市内の事業所における従業員数【8,3 8,5】	2021年4月 64,913 人	データなし	2030年 64,913 人以上	—
3	転出者数（直近5か年平均）【11,3】	2021年4月 9,107 人	2022年度 9,123.6 人	2030年 8,323 人	-2%
4	ボランティア・市民活動支援センター登録団体数【17,17】	2021年4月 171 団体	2023年3月 171 団体	2030年 171 団体以上	100%
5	健康寿命【3,3 3,4】	2021年度 16.94 男	2022年度 17.17 男	2030年度 16.99 男	460%
5	健康寿命【3,3 3,4】	2021年度 20.14 女	2022年度 20.27 女	2030年度 20.40 女	50%
6	温室効果ガス排出量の削減率【7,1 7,2 7,3 12,8 13,3】	2019年度 11 % ※2013年度比	2020年度 14 % ※2013年度比	2030年度 26 % ※2013年度比	19%
7	市内で排出された一般廃棄物のリサイクル率（事業系廃棄物を含む）【12,4 12,5 12,8】	2019年度 18.9 %	2022年度 20.4 %	2030年度 25 %	24%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・No. 1「市内で経済活動が行われている事業所数」及びNo. 2「市内の事業所における従業者数」については、経済センサスの調査で進捗を確認しているため、2021年実績はあるものの、2022年実績はないことから、データなしとした。なお、2026年6月の経済センサスの調査で進捗を確認する予定である。
- ・No. 3「転出者数」については、微増してしまったが、新型コロナウイルス感染症により、地方移住やテレワークなどが増えており、その影響によるものとも考えられる。一方、転入者数も多いため、結果として戸田市全体の人口は増加している。
- ・No. 4「ボランティア・市民活動支援センター登録団体数」については、上記と同様に長引く新型コロナウイルス感染症の影響でわずかに減少してしまった。ただ、「戸田ふるさと祭り」や「戸田マラソン」といった、戸田市を代表するイベントを実施することにより、ボランティアの方も活動する機会を創出するよう工夫した。
- ・No. 5「健康寿命」について
 - ①2021年度から2022年度における男性の健康寿命の延伸に寄与した原因は明らかではないため、今後の推移を注視していく。
 - ②2022年度時点において、2030年度までの男性の健康寿命については目標を達成しているという認識のもと、社会情勢、これまでの保健事業、関連各課の取組み、などを振り返り、2024年度から効果検証に取り組みたい。
 - ③男性の健康寿命の推移とともに、女性の健康寿命の延伸についても目標達成のため、フレイル、ロコモティブシンドロームの予防対策を強化していく。今後も関係各課との連携強化、周知啓発、事業の工夫に努めていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
1	地域に根差した産業の振興による「まちの活力」の創出 【2030年のあるべき姿7】	戸田市商工会の会員数	2021年4月 2,693 事業所	2023年3月 2,765 事業所			2024年 2,693 事業所以上	102%
2		創業比率	2021年4月 4.94 %	データなし			2024年 5.04 %	-
3	市内外の誰もが楽しめる、地域資源を活用した観光振興の推進 【2030年のあるべき姿2,7】	戸田市に愛着を感じている割合	2021年4月 82 %	データなし			2024年 86 %	-
4		観光入込客数	2021年4月 1,370,947 人	2022年 839,153 人			2024年 1,370,947 人以上	-61%
5	市民活動の活性化とパートナーシップによるまちづくりの推進 【2030年のあるべき姿1,2,3,4,7】	地域の活動に参加している市民の割合	2021年4月 42.3 %	データなし			2024年 42.6 %	-
6		公民連携ファームを通じた連携事業数	2021年4月 5 件	2022年度 18 件			2024年 8 件	433%
7	子どもから高齢者まで、市民の健康づくり支援の充実 【2030年のあるべき姿1,3】	30歳代健康診査受診数	2021年度 152 人	2022年度 138 人			2024年度 300 人	-9%
8		埼玉県コバト健康マイレージ事業参加者数	2021年4月 1,386 人	2022年度 8,969 人			2024年度 8,000 人	114%
9	カーボンニュートラルの実現に向けた環境対策の推進 【2030年のあるべき姿5,6】	(一人1日当たり)ごみの排出量	2019年度 895 g	2022年度 852 g			2025年度 680 g	20%
10		環境配慮型システム等設置補助件数	2020年度 123 件	2022年度 150 件			2025年度 160 件	72%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
11	カーボンニュートラルの実現に向けた環境対策の推進 【2030年のあるべき姿5,6】	電気自動車等導入補助件数	2020年度 8件	2022年度 19件			2025年度 20件	91%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2022年12月からSDGsに資する取組を行う市内の中小企業を対象に、市等が外部へPR支援していくため、「とだSDGsパートナー制度」を開始した。また、周知啓発等を行うため、有識者を招きキックオフイベントを開催した。

2022年度に経済・社会・環境に係る地域課題に取り組む市民活動に係る経費を支援し、SDGsの理念及び市民活動並びに協働を推進するため、「戸田市SDGs共創基金」を設置し、基金への積立を行った。また、2023年度は当該基金を活用し、市民活動団体のSDGsに係る取組を支援する補助制度（SDGs応援事業補助）を新たに設けた。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・No. 4「観光入込客数」については、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、戸田橋花火大会の開催を中止したことで減少してしまったが、「戸田ふるさと祭り」や「戸田マラソン」といった、その他の戸田市を代表するイベントを感染拡大に留意して実施することで、観光入込客数が増加するよう善処した。

・上記と同様の理由により、No. 7「30代健康診査受診数」についてもわずかに減少してしまったが、新型コロナウイルス感染症の流行状況を見つ、今後、SNSやチラシなどで啓発活動を実施することで、病気の早期発見、健康寿命の延伸に繋がっていきたいと考えている。さらに、「埼玉県コバトン健康マイレージ」の周知・啓発などにより、市民全体の健康増進にも努めている。

・No. 6「公民連携ファームを通じた連携事業数」については、民間企業と連携したプラットフォームを通じて、連携事業数が増加するよう努めていく。

・No. 9「（一人1日当たり）ごみの排出量」について

- ① 3Rの推進やプラスチックごみ問題について、パンフレット等による啓発を行い、ごみの減量化やリサイクルの推進を促す。
- ② ごみの分別パンフレットについて、町会への配布から全戸配布へ切り替えることにより、分別方法のさらなる周知に務める。
- ③ 生ごみ処理機購入補助制度やフードドライブの実施、蕨戸衛生センター内のリサイクルフラスターセンターの活用により、生ごみの発生や食品ロスの削減を目指す。

※埼玉県コバトン健康マイレージ…専用のアプリや歩数計を使ってウォーキングを続け、楽しく健康づくりを進められる取り組みである。参加者は、県や市が実施する抽選会に参加することができ、豪華景品が当たる。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・健康マイレージ事業参加者は着実に増加しているように見受けられ評価できる。

・30代健康診断受診数が減少しているが、これはコロナ禍の影響なのか分析が必要と料する。